

IRBルールとA J S K A現行ルールの相違点

2003/10/27

A J S K A競技委員会

[目次]

1. はじめに
2. 前提事項
3. 相違点
 - 3.1 競技フィールド
 - 3.2 風速規定
 - 3.3 ウインドチェック
 - 3.4 境界線を越えてのフライト
 - 3.5 ヒート
 - 3.6 ラUNCHクルー
 - 3.7 セットアップタイム
 - 3.8 用具交換
 - 3.9 他者からのアドバイス
 - 3.10 偶発的な接触とクラッシュ
 - 3.11 クラッシュ後、45秒以内にリラUNCH出来ない場合
 - 3.12 インプロパーエンディング
 - 3.13 規定コンパルソリーの発表
 - 3.14 バレーの音源
 - 3.15 最小/最大制限時間
 - 3.16 採点の基本
 - 3.17 規定/バレー総合得点の採点配分
 - 3.18 規定テクニカルルーティンの運営
 - 3.19 規定の採点配分
 - 3.20 チーフジャッジの役割

[本文]

1. はじめに

本文では、2004年よりAJSKA公認大会で実施するIRBルールと現在運用されているAJSKA現行ルールとの相違点についてまとめます。1996年にIRBCは発足し、国際大会での共通したルールとして、IRBルールが制定されました。そして、その後随時見直しが行われています。AJSKAでも公認大会の競技ルールとして、IRBルールを適用する事で、「国際大会に参加する際、ルールの違いによる混乱を軽減する」「競技をスムーズに進行させる」を実現したいと考えております。

IRBルールとAJSKA現行ルールでは、大局的には大きな変更はありませんが、ペナルティ、採点方法、準備時間など細かな部分で、変更されている点が多々あります。本文を読んで頂き、大会スタッフ及び大会参加者が少しでもAJSKA現行ルールとの違いを理解して、来年以降の競技での混乱を少なくして頂ければ、幸いです。

2. 前提事項

(1) 本文では、以下の資料を基に、相違点をまとめています。

< AJSKA現行ルール > AJSKAホームページ競技会情報

ルールブック、チーム登録ルール(1998)、ルールブック差分(1999)、ポイント制度(1999)、大会運営についての連絡、及び申し合わせ事項(1999)、ポイント制度・クラス分類方法・代表選考方法(2000)

< IRBルール > 現在、AJSKAホームページにて公開中

IRBコンペティションルールブック Version2,1 翻訳版

IRBジャッジブック Version1,1 翻訳版

(2) 本文では、以下の項目を表記上、略称して記載させていただきます。

現行運用しているAJSKA競技ルール・・・現行ルール

IRBコンペティションルールブック及びIRBジャッジブックの総称・・・IRBルール

IRBコンペティションルールブック・・・ルールブック

IRBジャッジブック・・・ジャッジブック

インターミディエイト・・・インター

エクスペリエンス・・・エクス

(3) 各相違点の最後に、現行ルール、IRBルールの関連部分を以下の表記例で記載します。

cf)[現行] - D 競技に必要な人員

[IRB](ジャッジブック) B.1 スタッフ

3. 相違点

3.1 競技フィールド

競技フィールドの最小サイズについて、以下に変更されます。

	現行	IRB
チーム/ペア	90m×90m (理想は122m×122m)	110m×110m
個人デュアル	76m×76m	90m×90m
個人マルチ		75m×75m

また内側境界線(イエローライン)は「5m」「3m」に変更されています。

cf)[現行] - B.4 競技フィールドの最小サイズ

[IRB](ルールブック) - D. 競技フィールド

3.2 風速規定

風速範囲について、以下に変更されます。

	現行		IRB	
	最低	最大	最低	最大
ノービス	1.8m/s	9.0m/s	2.0m/s	8.3m/s
インター			1.1m/s	12.5m/s
エクス	0.9m/s			
マスター				

cf)[現行] - D. ウィンドルール及びフライト条件

[IRB](ルールブック) - J. 風速規定

3.3 ウィンドチェック

演技開始後のウィンドチェックの要求可能時間と、フィールドディレクターが計測する時間が以下に変更されます。

	現行	IRB
演技開始後のウィンド チェックの要求可能時間	最大制限時間の半分 個人バレー：2分以内 ペア/チームバレー：2.5分	2分以内 (個人規定のテクニカル ルーティンのみ1分)
ウィンドチェック計測時間	15秒	10秒

cf)[現行] - D. ウィンドルール及びフライト条件

[IRB](ルールブック) - J. 風速規定

3.4 境界線を越えてのフライト

IRBでは、「境界線を越えてのフライト」について以下の様に明記されています。

「演技中、演技に入る前、演技終了後のいずれにおいても外側境界線を越えてのフライトは、その種目を失格とする。すなわち、このルールは、ヘッドジャッジが規定する『その種目の開始から終了までの間』に発生した全てに対し適用される」

その為、以下の様な行為は失格となります。

- ・ 従来は、フィールドインする場合、フライトしながらピットからフィールドへ入場していましたが、これも失格となります。
- ・ 従来は、フィールドイン後のセットアップ中（準備時間中）にウインドーウインドのチェックを行う為、外側境界線（レッドライン）を超えたフライトをしても、失格となりませんでした。これも失格となります。
- ・ 従来は、演技終了後もフライトしながら退場していましたが、これも失格となります。

cf) [現行] - E . 安全、(ルールブック差分) 1 . 競技モードの設定

[IRB](ルールブック) - B . 安全

3.5 ヒート

ヒートを実施した場合の決勝（ファイナル）進出数は、現行ルールでは「3名」と規定されていましたが、IRBルールでは、「チーフジャッジとオーガナイザは、決勝進出者が15人以下になるように各ヒートの通過者数を決める。」と変更されます。

よって、例えば予選を3ヒートで実施した場合、現行では、決勝進出者は、9名と決まっておりましたが、IRBでは、各ヒートの決勝進出者を最大5名迄選ぶ事が可能です。（この場合、5名×3ヒート=15名で15名以下となります）

cf) [現行] - G . ヒート（予選）及びフライトオーダー

[IRB](ルールブック) - L . ヒート

3.6 ラウンチクルー

ラウンチクルーの人数制限について、以下に変更されます。

	現行	IRB
チーム	1名以上配置	メンバー数と同数迄
ペア	(上限なし)	2名迄
個人		

cf) [現行] - D . ラウンチクルー

[IRB](ルールブック) - P . ラウンチクルー

3.7 セットアップタイム

従来では、セットアップタイムは厳密に規定されていませんでしたが、IRBでは、各準備時間が細かく規定されています。

各セットアップタイムは、以下の通りです。

	個人	ペア	チーム
競技開始のセットアップ	3分	4分	5分
コンパルソリー間	45秒		
コンパルソリーとテクニカルルーティンの間	90秒		

フィールドディレクターからフィールドインの合図を受けたら、個人は3分、ペアは4分、チームは5分以内に、演技を開始出来る状態にして、待機しなければなりません。

規定コンパルソリーの場合、コンパルソリー間の準備時間も45秒と規定されています。

またコンパルソリー終了後、テクニカルルーティンを行う準備時間は、90秒と規定されています。

またこれらの準備時間を超過した場合は、以下の様な対応が実施されます。

< バレーの場合 >

- ・ 競技開始のセットアップタイムを超過した場合、強制的に音楽を開始します。
- ・ バレーの「振付」得点から10点減点

< 規定コンパルソリーの場合 >

- ・ そのコンパルソリーは、0点となる

< 規定テクニカルルーティンの場合 >

- ・ フィールドディレクターにより強制的に「イン」コールが行われ、演技が開始されます。
- ・ テクニカルルーティンの構成力から10点減点

cf)[現行] - E . 準備時間

[IRB](ルールブック) - G . セットアップタイム

(ジャッジブック) - A . バレーとテクニカルルーティンのペナルティ

- B . プレシジョンだけのペナルティ

3.8 用具交換

演技開始後に、フィールド内に持ち込まれた用具を使用した場合、現行ルールでは、「2点減点のペナルティと演技の終了」であります。IRBルールでは「失格」となります。

cf)[現行] - F . カイト及び用具

[IRB](ジャッジブック) - D . 失格

3.9 他者からのアドバイス

現行ルールでは、他者からのアドバイスについて、禁止されていると明記されているだけで具体的なペナルティについて明記されていませんが、IRBルールでは、「その競技種目の最終得点からマイナス10点。あるいは繰り返しその行為を行う場合は、失格」となります。

cf)[現行] - H. コーチング

[IRB](ジャッジブック) - D. 失格

3.10 偶発的な接触(ティックス)とクラッシュ

現行ルールでは、偶発的な接触(ティックス)とクラッシュの扱いについて、ほぼ同等な扱いをしていましたが、IRBルールでは、この減点割合が異なります。その前に「ティックス」と「クラッシュ」の定義を明記しておきます。

ティックス

瞬間的にカイトが地面、他のカイト、または他のカイトのラインに接触した事をいいます。

クラッシュ

カイトが地面、他のカイト、または他のカイトのラインに接触し、そして競技者がカイトコントロール不能に陥ったとジャッジが判断する事をいいます。

従来、ティックスでもクラッシュで4.5秒以内にリラウンチした場合は、強制ペナルティは1回あたり「0.2点」の減点でした。(クラッシュの場合、強制ペナルティの他に任意ペナルティは0.1点~1.0点の減点もあります)

IRBでは、以下の減点になります。(クラッシュの減点が厳しくなります)

<ティックスの場合>

強制ペナルティ：2点減点、任意ペナルティ：1~10点減点

<クラッシュの場合>

強制ペナルティ：10点減点、任意ペナルティ：1~20点減点

よって、現行ルールでは、演技終了後、ジャッジの方は、今まで「ティックス及びリラウンチ出来たクラッシュの回数」を纏めてカウントしていましたが、IRBでは「ティックスの回数」と「リラウンチ出来たクラッシュの回数」を別々にカウントし、減点する必要があります。

cf)[現行] - B. クラッシュ、衝突及び接触

[IRB](ジャッジブック) - A. パレーとテクニカルレーティンのペナルティ

- B. プレシジョンだけのペナルティ

3.11 クラッシュ後、45秒以内にリラUNCH出来ない場合

クラッシュ後、45秒以内にリラUNCH出来ない場合の減点の変更となります。

減点の重みは変更ありません。現行ルールでは、10点満点でしたが、IRBルールでは100点満点での減点となります。

		現行	IRB
最小制限時間経過前		0点	0点
最小制限時間経過後	規定テクニカルルーティン	技術点から0.2点減点	テクニカルルーティンの最終得点から20点減点
	バレー	実行力から0.2点減点	総得点から20点減点

cf)[現行] - B. クラッシュ、衝突及び接触

[IRB](ジャッジブック) - A. バレーとテクニカルルーティンのペナルティ

3.12 インプロパーエンディング

インプロパーエンディングに対する減点が以下に変更されます。

		現行	IRB
規定テクニカルルーティン		芸術点から0.9点減点	構成力から10点減点
バレー		振付から0.9点減点	振付から10点減点

cf)[現行] - D. インプロパーエンディング (不適当なエンディング)

[IRB](ジャッジブック) - A. バレーとテクニカルルーティンのペナルティ

3.13 規定コンパルソリーの発表

従来の国内大会の運営では、競技会の30日以上前に通常、2～6つのコンパルソリーを発表して、そのまま発表された全てのコンパルソリーを実施しています。IRBでは、規定コンパルソリーの発表について以下に変更となります。

「様々な技術の熟練度を測る為に、最高6つまでコンパルソリーを競技会の30日以上前に発表し、そのうち3つのコンパルソリーをチーフジャッジが競技会当日に選んで行う。」

cf)[現行] - C. 競技様式

[IRB](ルールブック) - I. プレシジョン

3.14 バレーの音源

バレーの音源の提出数、音源連絡方法は以下に変更となります。

	現行	IRB
音源の提出数	2曲迄提出可	3曲迄提出可
連絡方法	ピットで待機中に自分の2出番前までにピットボスにどの曲を使うか連絡	フィールドインの際、直ちにフィールドディレクターにどの曲を使うか連絡

cf)[現行] - C. 競技様式

[IRB](ルールブック) - H. バレー

3.15 最小/最大制限時間

最小/最大制限時間は、以下に変更となります。

		現行		IRB	
		最小	最大	最小	最大
個人	規定テクニカルルーティン	0.5分	2.0分	1.0分	3.0分
	バレー	2.0分	4.0分	2.0分	4.0分
ペア / チーム	規定テクニカルルーティン	2.0分	5.0分	2.0分	5.0分
	バレー				

cf)[現行] - D. 競技の詳細及び要点

[IRB](ルールブック) - H. バレー、 - I. プレジジョン

3.16 採点の基本

従来、フィールドでのジャッジの採点方法は「0～10の間で、0.1ポイント刻みで採点」していましたが、IRBでは、「0～100点までの点数(整数)で採点」に変更となります。

cf)[現行] - A. 一般事項

[IRB](ジャッジブック) . 採点の基本

3.17 規定/バレー総合得点の採点配分

競技会において、規定とバレーを開催し、その総合得点で順位を決定する場合、従来は規定得点の40%とバレー得点の60%で合計得点を算出していましたが、IRBルールでは、規定、バレーともに50%の比率で採点配分を行います。

これは、上記の計算する場合のみ適用します。現在、AJSKA年間ポイント制度でも、似たような方法で計算しておりますが、こちらは現行通りの40%/60%の比率で行う予定です。

cf)[現行]記載なし

[IRB](ジャッジブック) - A. 採点の手順

3.18 規定テクニカルルーティンの運営

規定競技については、従来大会では、コンパルソリーのみでテクニカルルーティン（「フリースタイル」と呼ばれていたもの）を開催する事が非常に少ない状況でした。その為、規定の場合、3つのコンパルソリーを30%、30%、40%の採点配分にして、100点満点に換算して、算出する事が多く運営されております。

一方、IRBルールでは、規定競技の中で「コンパルソリー60%、テクニカルルーティン40%」で、「各コンパルソリーは20%」となっております。その為、今後の規定競技では、コンパルソリーだけでなく、テクニカルルーティンを実施する必要があります。

cf)[現行]記載なし

[IRB](ジャッジブック) プレシジョンの採点

3.19 規定の採点配分

コンパルソリーとテクニカルルーティンの採点配分が以下に変更となります。

		現行	IRB
個人	コンパルソリー	60%	60%
	テクニカルルーティン実行力	30%	30%
	テクニカルルーティン構成力	10%	10%
ペア / チーム	コンパルソリー	30%	60%
	テクニカルルーティン実行力	45%	30%
	テクニカルルーティン構成力	25%	10%

従来、ペアとチームでは、テクニカルルーティン（旧フリースタイル）の重みが大きかったのですが、個人同様の重み付けに変更されます。

cf)[現行] - D . 競技の詳細及び要点

[IRB](ジャッジブック) . プレシジョンの採点

3.20 チーフジャッジの役割

チーフジャッジの大きな役割は変わっておりませんが、現行ルールに較べ役割内容が細かく明記されております。現行ルールで細かく明記されていなかったチーフジャッジの責務として以下の様な事項が挙げられています。

- ・スタッフの配置
- ・競技会のお知らせの編集、郵送、得点の発表の管理
- ・プレジジョン種目のコンパルソリーフィギュアを3つ決める。可能であれば、他のジャッジ、特にプレジジョン種目のヘッドジャッジと協議して決定する。
- ・各競技種目のフライトオーダを準備する
- ・競技会の開始時間・終了時間を決定する

cf)[現行] - D . 競技に必要な人員

[IRB](ジャッジブック) . B 運営指針